





《特性値》

	ポートフォリオ	TOPIX
PBR	0.91倍	1.45倍

《規模別構成》

	ポートフォリオ	TOPIX
Core30(超大型)	16.2%	40.5%
Large70(大型)	12.7%	25.8%
Mid400(中型)	47.7%	25.7%
Small(小型)	23.3%	8.0%
その他	0.0%	0.0%

※その他は、Core30、Large70、Mid400、Smallに属さない銘柄です

	銘柄名	PBR(倍)	銘柄紹介
1	北洋銀行	0.51	北海道最大手の地方銀行。1990年代の金融危機時に、北海道拓殖銀行の道内事業を引き継いだ。日本政府も支援する半導体メーカー「ラピダス」の北海道での事業展開が追い風。関連産業の集積や住宅建設等をはじめ地域経済および産業の活性化が想定され、北洋銀行にもプラスの波及効果が期待できる。
2	三菱瓦斯化学	0.90	天然ガスを原料として幅広い化学品を生産。半導体パッケージ基盤材料やスマホ向けレンズ材料等で高いシェアを持つ。競争力がある製品の成長や各事業の固定費削減を通じて全社的な収益性改善に期待。
3	三井住友フィナンシャルG	0.92	銀行業務を中心に、信託、証券、消費者金融、クレジットカード、リース、資産運用など、総合金融サービスの提供を展開。多数の国内ノンバンクを子会社として直接保有しており、大きな特徴となっている。
4	ソフトバンクグループ	1.21	子会社に国内通信大手のソフトバンクや半導体開発のARMを有する持株会社。近年では投資会社としての側面が強まっており、ソフトバンクビジョンファンドを通じてインターネット関連企業やAI関連企業にも幅広く投資。保有するARM株の上場に伴いバランスシートに余裕が生まれている。
5	住友電工	0.90	自動車ワイヤーハーネスで世界大手の一角。グローバル供給体制を構築。機動的な出荷対応や効率的な在庫管理を可能とする生産体制の見直しや高電圧ハーネスなどのCASE向け電動化製品の開発が進む。データセンター向け製品群も需要回復が見込まれる。
6	三菱UFJフィナンシャルG	0.99	主に商業銀行および信託、国際金融、資産運用、投資銀行などの投融資サービスを提供。顧客部門の利益拡大と、規律ある資本運営・経費コントロールによるROEの改善に期待している。
7	大同特殊鋼	0.79	特殊鋼専門メーカー。半導体製造装置向けステンレス棒鋼・線材で世界シェア40%を誇る。主力特殊鋼鋼材ではベース値上げの浸透に加え、エネルギーサーチャージの導入も進み収益が安定化。半導体製造装置市場拡大を追い風に中期的な事業拡大が期待される。
8	九州フィナンシャルG	0.63	熊本県内貸出トップシェアの肥後銀行と鹿児島県内貸出トップシェアの鹿児島銀行が2015年に経営統合して発足。地方銀行上位の総資産を誇る。
9	M S & A D	1.16	大手損保グループの一角。2010年に三井住友海上グループホールディングス、あいおい損害保険、ニッセイ同和損害保険の3社の経営統合によって誕生。保険料ベースで業界最大手の国内損保事業では、自動車保険や火災保険、新種保険等を主力商品として提供しており、三井・住友グループ、トヨタ・日本生命グループなどのネットワークを活用。国内生保事業では第三分野中心に保険引受を拡大し、金融機関窓販チャネルにも強みがある。
10	本田技研	0.67	二輪車のほか四輪車、小型ジェット機、マリ用エンジンなど幅広いラインナップが特徴。世界トップシェアで高収益の二輪事業や強固な財務体質を活かしてPBR1倍割れ解消に向けた積極的な株主還元を実施。四輪事業もHEV（ハイブリッド自動車）など様々な施策の顕在化から収益改善が進む。

(出所) ブルームバーグ、会社発表資料等

〈マーケット環境〉

5月の国内株式市場は上昇しました。月前半は、米国の消費者物価指数などの下振れから米金利が低下し米国株に連れて国内株が上昇する場面もありましたが、日銀の国債買入れ減額観測などで金利が上昇したことが重しとなり、横ばい圏で推移しました。月後半は、長期金利の上昇を嫌気する場面もありましたが、米国株が最高値を更新した流れが国内株にも波及したことや、予想を上回る株主還元策が好感されたことを支えに堅調に推移しました。

〈運用経過〉

運用チームおよびリサーチチームが有する知見と情報をもとに調査、分析し、PBR改善のファンダメンタルズと経営の意志を有し、企業価値の向上が期待できる企業でポートフォリオを構築しました。銘柄選別においては、東証要請を契機に、各企業が公表したPBR向上のための計画の実現可能性を調査、分析するとともに、インフレ環境への転換により、徐々に受け入れられている値上げの推進や収益力・経営基盤強化に寄与する構造改革や成長戦略の進展、資本効率の改善施策など、個別企業が行う企業価値向上のための施策の内容や実行力等に着目しました。

〈今後の運用方針〉

**国内の金利上昇や米国株式市場の軟化に注意しつつも、堅調な株価推移を想定**

日銀の追加利上げ観測などで金利に上昇圧力がかかっていることや、米国の利下げ開始の後ずれで米国株式市場が軟化し、それが国内株式市場に波及する可能性には注意が必要です。しかし、日銀の金融政策は「当面、緩和的な金融環境が継続する」ことが見込まれるなか、資本コストを意識した経営に向けた株主還元策の強化や新NISAの投資枠拡大による個人投資家の株式市場への資金流入期待も根強く、堅調な株価推移を予想します。

**良好なパフォーマンス実現に向けて**

当ファンドは、「企業の稼ぐ力・資本効率向上」および「市場の評価を高める動き」に着目し、企業調査を行います。具体的には、財務余力、事業競争力、株主構成に着目し銘柄を選別します。また、当ファンドにおける銘柄選定においては、PBR改善に向けた経営陣の意志も重視します。過去において、低PBR企業が低PBR企業であり続けたのは、PBRを改善させようという経営の意志が希薄だったこともその一因にあると考えているためです。この度の東証の取り組みが、企業価値向上を一時的なものではなく、中長期的に実現し続けることであるとしているように、各企業の企業価値向上に向けた努力は、PBR1倍で終了することはありません。一方で、我々は、各企業の企業価値は、PBR改善に向けて努力する企業は改善を続け、一方で、その努力が出来ない企業は沈んでいくというように二極化していくと考えています。

当ファンドにおいては、運用チーム、リサーチチームが共働し、PBR改善が出来るファンダメンタルズに加え、PBR改善に向けた経営陣の考え方も含めた調査、分析を行い、将来的に顕在化することが見込まれる企業価値向上を捉まえ、良好なパフォーマンスを実現していきたいと考えています。

## 《ファンドの目的・特色》

### ファンドの目的

- ・わが国の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

### ファンドの特色

- ・わが国の金融商品取引所上場株式の中から、相対的にPBRが低く、企業価値の向上が期待できる企業に投資します。
- ・毎年3月22日および9月22日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

## 《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。**

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 当ファンドは中小型株式に投資することがあります。中小型株式については、株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動するリスクがあり、当ファンドの基準価額に影響する可能性があります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短時間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## 《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限) <u>3.3%(税抜3.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	<u>年率1.573%</u> <u>(税抜1.43%)</u>	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配分 (税抜) (注1)	委託会社	年率0.70%
	販売会社	年率0.70%
	受託会社	年率0.03%
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1) 「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2) 「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

購入単位	最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位
購入価額	① 当初申込期間 1万口当たり1万円 ② 継続申込期間 購入申込受付日の基準価額（1万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額（1万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	① 当初申込期間 当初申込期間最終日の販売会社所定の時間まで （販売会社所定の事務手続きが完了したもの） ② 継続申込期間 午後3時まで （販売会社所定の事務手続きが完了したもの）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）できます。 ・受益権の口数が30億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行いません。 （注） 当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取り扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、NISA（少額投資非課税制度）の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合にNISAの適用対象となります。 当ファンドは、2024年1月1日以降のNISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となる予定ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

## ◀ 当資料のお取り扱いにおけるご注意 ▶

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00)

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

## 日本企業PBR向上ファンド（愛称：ブレイクスルー）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第11号	○			
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第6号	○			
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第8号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。